

今日のキーワード「レジャー白書」、余暇市場は堅調(日本)

余暇市場の動向や消費者の余暇に対する意識などは、公益財団法人日本生産性本部が毎年8月上旬に発行する「レジャー白書」で把握することができます。発行に先立って7月下旬に概要の発表があります。1977年に創刊され、今年で39号目となります。2015年版は、全国の15歳～79歳の男女3,325人の回答を基に1月時点の調査としてまとめられました。

ポイント1 2014年の余暇市場は2年連続で増加 観光・行楽部門が伸びをけん引

- 2014年の余暇市場は、前年比+0.6%の72兆9,230億円と2年連続で増加しました。市場部門別の伸びを見ると、「観光・行楽部門」が同+5.0%と全体の伸びをけん引しました。そのうち、国内旅行が大きく伸び、テーマパークなども堅調でした。また外国人旅行者の増加もあり、ホテルは2桁の伸びとなりました。
- そのほかの部門を見ると、「スポーツ部門」は、スポーツ用品やスポーツ観戦が伸び、同+0.7%となりました。「娯楽部門」は、競馬などの公営ギャンブルに明るさが戻ったものの、パチンコ・パチスロ、テレビゲーム、ゲームセンターの落ち込みに歯止めがかからず、同+0.1%にとどまりました。また、「趣味・創作部門」は、映画、音楽コンサートなどは伸びましたが、カメラ、音響機器製、DVD、書籍などが落ち込み、同▲1.8%と減少しました。全体を見ると、「外に出かけて楽しむレジャー」が比較的堅調でした。

ポイント2 「国内観光旅行」が最大をキープ 「歩く」レジャーが人気

- 余暇活動の状況を余暇種目別に見ると、「国内観光旅行」が推計参加人口で4年連続の1位とレジャーの主流です。これ以外では、5位に「ウィンドウショッピング」、6位に「複合ショッピングセンター、アウトレットモール」が入り、「ウォーキング」や「ピクニック、ハイキング、野外散歩」が順位を上げていることから、「レジャー白書」では、「歩く」レジャーが人気としています。



今後の展開 景気回復に伴い余暇市場はさらに拡大へ

■旅行需要は底堅い

観光庁が発表した主要旅行業者の旅行取扱額は、4月、5月ともに前年同月比プラスでした。円安などで海外旅行は減少しましたが、国内旅行がけん引しました。旅行需要に底堅さが見られます。

■賃金上昇でレジャー支出は増加へ

また、今後さらなる賃金上昇が見込まれ、レジャー支出の増加も期待されます。関連する消費やサービスなどの市場は引き続き好況が見込まれます。

ここも チェック!

2015年08月17日 日本の4-6月期GDPはマイナス成長、年後半は回復へ
2015年08月14日 日本の主要企業の決算見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。